

HP Network Node Manager iSPI Performance for Metrics/ Network Performance Server

Windows® オペレーティング システム向け

ソフトウェア バージョン : 9.10

インストール ガイド

ドキュメント リリース日 : 2011 年 3 月
ソフトウェア リリース日 : 2011 年 3 月



ご注意

保証

HP 製品とサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。HP では、ここに記載されている技術的、または編集上の不正確さや脱漏については責任を負いません。

ここに記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。

制限付き権利に関する通知

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP が提供する有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に準拠し、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダーの標準商用ライセンスの下、米国政府にライセンスされています。

著作権に関する通知

© Copyright 2009 – 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標に関する通知

Java は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

UNIX® は、オープン グループの登録商標です。

謝辞

この製品は、libjpeg ライブラリを含みます。Copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.

Graphics Interchange Format(c) は、CompuServe Incorporated の所有物であり、著作権を保持します。

GIF(sm) は、CompuServe Incorporated の所有物であり、サービス マークを保持します。

この製品は、libxml2 ライブラリを含みます。Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard.All Rights Reserved.

この製品は、libxp ライブラリを含みます。Copyright © 2001,2003 Keith Packard.

ドキュメントの更新

本ドキュメントの表紙には、次の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア バージョン番号
- ドキュメントの更新ごとに変更されるドキュメント リリース日
- ソフトウェアのこのバージョンがリリースされた日を示すソフトウェア リリース日

最近の更新を確認する場合、または最新のドキュメントを使用しているかを確認する場合は、次のサイトをご覧ください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトにアクセスするには、HP パスポートに登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP パスポート ログイン ページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

製品のサポート サービスに登録すると、最新版を入手できます。詳細については、最寄りの HP 営業担当者にご連絡ください。

サポート

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトには、次のアドレスからアクセスしてください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、連絡先情報、および HP ソフトウェアが提供している製品、サービス、サポートに関する詳細が記載されています。

HP ソフトウェアのオンライン サポートでは、お客様に自己解決していただける機能を提供しています。ビジネスを管理するのに必要な、インタラクティブな技術サポート ツールへ素早く効率的にアクセスできる手段を提供しています。お客様は、サポート サイトで以下の機能を利用できます。

- 関心のあるナレッジ ドキュメントの検索
- サポートケースおよび拡張リクエストの送信および追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問合せ先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ソフトウェアを利用している他のユーザーとの情報交換
- ソフトウェアトレーニング情報の検索および参加登録

大部分のサポートには、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。さらに、大部分がサポート契約を必要とします。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセス レベルに関する詳細については、次のサイトにアクセスしてください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1 はじめに	7
アーキテクチャの概要.....	8
NPS のコンポーネント	8
インストールの概要	9
NNMi 管理サーバーへのインストール	9
専用サーバーへのインストール.....	9
追加情報について.....	10
ドキュメントの表記規則.....	10
2 前提条件とプランニング	13
前提条件	13
インストールのプランニング	13
NNMi のバージョン.....	14
プラットフォームの組み合わせ	14
ファイル共有メカニズム.....	15
ドメイン名	15
インストール前のチェックリスト	15
シングル サインオン.....	17
3 NNMi 管理サーバーへのインストール	19
NPS のインストール.....	19
NPS でのセキュリティで保護された送信モードの有効化	20
セキュリティで保護された接続モードが有効化されているかどうかの確認.....	20
高可用性 (HA) クラスタへの NPS のインストール	21
NNM iSPI Performance for Metrics のインストール	23
NNM iSPI Performance for Metrics の無効化	23
NPS の削除.....	24
HA クラスタからの NPS の削除	25
4 専用サーバーへのインストール	27
有効化 スクリプトの実行	27
Windows 管理サーバーでの実行.....	27
NPS でのセキュリティで保護された送信モードの有効化	30
セキュリティで保護された接続モードが有効化されているかどうかの確認.....	31
NNM iSPI Performance for Metrics のインストール	31
NNM iSPI Performance for Metrics の無効化	32

HA クラスタへの NPS のシステムのインストール	33
オプション 1: HA クラスタに NPS をインストールする	33
オプション 2: NNMi 管理サーバーのみが HA クラスタにある	35
トラブルシューティングのヒント	35
NPS の削除	36
HA クラスタからの NPS の削除	37
5 使用	39
NPS レポートの起動	39
NNMi コンソールからの起動	39
レポートメニューの直接起動	39
[スタート] メニューからの起動	40
エラーのないインストールの確認	40
Configuration Utility の使用	41
NPS のトラブルシューティング	42
Log File Monitor	42
Log File Analyzer	43
診断レポート	43
Diagnostic Collector	44
パフォーマンス ポーリングのデフォルトの変更	44
例外のしきい値の設定	44
BI Server の管理者パスワードの変更	45
6 ライセンスの取得	47
NNM iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスの取得	47
NNM iSPI Performance for Metrics の追加ライセンス パスワードの取得	48
サードパーティ製のソフトウェアに関する制限事項	48
7 NNM iSPI Performance for Metrics のアップグレード	49
NNMi 管理サーバーでのアップグレード	49
専用サーバーでのアップグレード	49
8 インストールの問題	51
問題: インストーラが「変数の初期設定中に問題が発生しました」のエラーを示して失敗する。	51
問題: システム チェック実行の結果、インストーラによって WARNING メッセージが表示される。	51
問題: システム チェック実行の結果、インストーラによって ERROR メッセージが表示される。	51
問題: NNMi はマシンにインストールされていないが、NNMi のバージョンが正しくないという NNMi バージョンチェックの ERROR メッセージがインストーラによって表示される。	52
問題: インストールに長時間かかる。	52
問題: NNMi コンソールの [アクション] メニューに [レポート - レポート メニュー] へのリンク がない。	52
A サイレントインストールの実行	53

1 はじめに

Network Performance Server (NPS) は、**Network Node Manager i Software (NNMi)** と組み合わせて使用できるインフラストラクチャを提供します。このインフラストラクチャにより、ネットワークのパフォーマンス特性を分析できます。**NPS** では、さまざまな **HP Network Node Manager i Software Smart Plug-ins (iSPIs)** によって収集されたパフォーマンス データにより、データ テーブルを構築し、ユーザーの選択に応じてクエリを実行し、**Web** ベースのレポートにクエリ結果を表示します。このクエリ結果は、ネットワーク環境の問題の診断およびトラブルシューティングに役立ちます。

NPS メディアには、**HP Network Node Manager i Software Smart Plug-in Performance for Metrics (NNM iSPI Performance for Metrics)** のインストール オプションが収録されています。**NNMi** によりさまざまなネットワーク要素からポーリングされるメトリック データを収集してモニタリングすることにより、**NNMi** にコア パフォーマンス管理機能を提供します。**NNMi** と **NNM iSPI Performance for Metrics** を組み合わせることにより、ネットワーク インフラストラクチャの運用パフォーマンスをモニタリングできます。

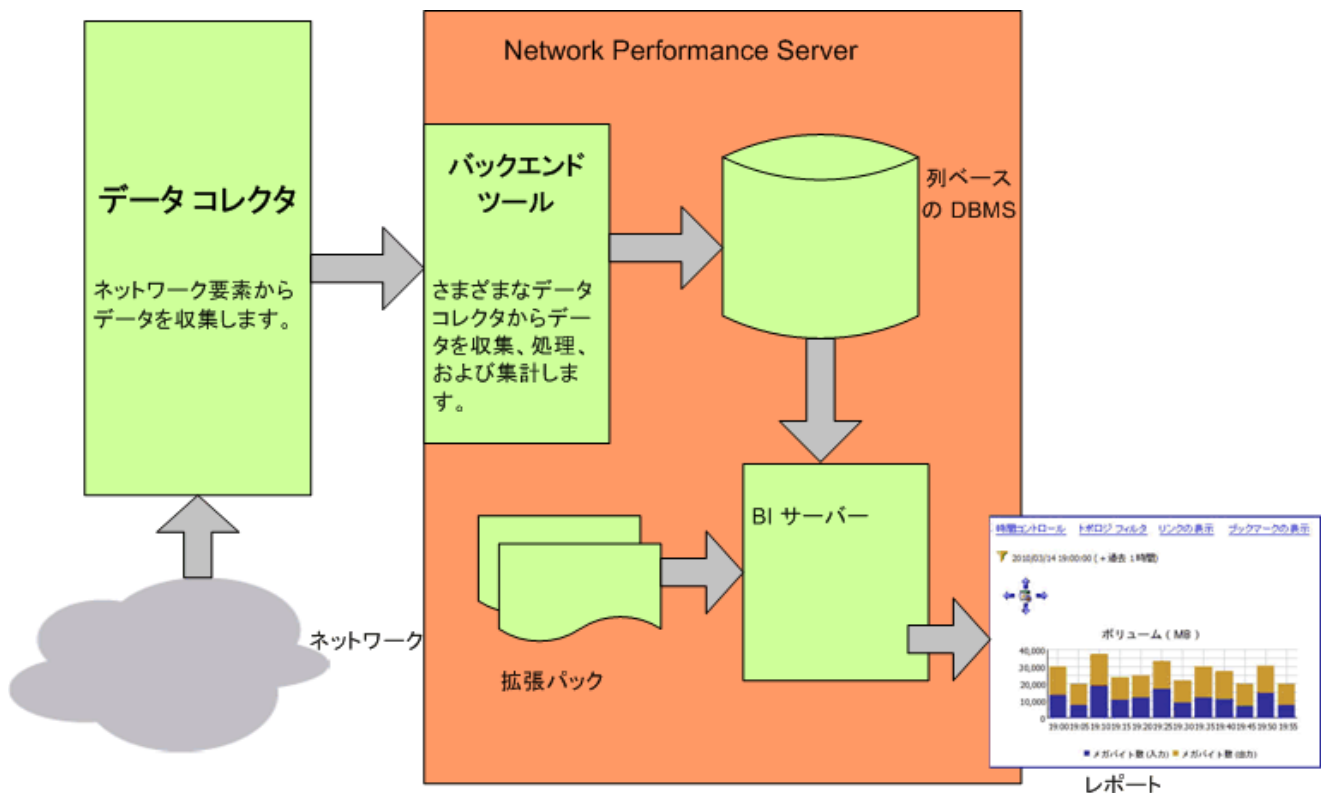
NPS では、他の **iSPI Performance** 製品 (**iSPI Performance for Traffic** や **iSPI Performance for Quality Assurance** など) でレポートを生成するためのインフラストラクチャやリソースを提供します。**NNM iSPI Performance for Metrics** を使用しない場合は、**NNM iSPI Performance for Metrics** を有効化せずに **NPS** をインストールすることもできます。運用環境に **NPS** がインストールされている場合、他の **iSPI Performance** 製品でレポートを生成できます。

インストール中に **NNM iSPI Performance for Metrics** のインストールを選択すると、インストールの終了時に、インストーラにより **NNM iSPI Performance for Metrics** のインスタントオン ライセンスが有効化されます。インスタントオン ライセンスの有効期間は **30** 日間です。インスタントオン ライセンスの期限が切れると、**NNM iSPI Performance for Metrics** の恒久ライセンスを購入して有効にするまで **NNM iSPI Performance for Metrics** を使用できなくなります。ただし、他の **iSPI Performance** 製品のインスタントオン ライセンスまたは恒久ライセンスが有効な場合、それらの **iSPI Performance** 製品では、**NPS** インフラストラクチャを引き続き使用できます。

アーキテクチャの概要

NPS は、NNMi またはカスタム コレクタ (iSPI で利用可能) により収集されたさまざまなネットワーク要素のデータの格納、処理および分析を行うインフラストラクチャを提供します。各データソースからのデータの収集後に、NPS はデータを処理および集計して、列ベースのデータベース管理システム (DBMS) にデータを格納します。ビジネス インテリジェンス フレームワーク (BI サーバー) は、データの分析およびレポート作成の根幹を成しています。BI サーバーで利用可能なデータ分析ツールを利用することにより、環境内で利用可能なネットワーク要素のパフォーマンスを示した、すぐに利用可能なレポートを表示できます。

図 1 NPS の高度なアーキテクチャ



NPS のコンポーネント

NPS のコンポーネントは、次のカテゴリに分類できます。

- 列ベースの **DBMS**

列ベースの **DBMS** により、NPS ソリューションにデータ ウェアハウス機能が追加されます。**DBMS** は、さまざまなソースから収集された大量のデータを格納でき、NPS では多数のデータ点を使用した集計が可能になります。収集されたデータは最長で **400 日間 DBMS** 内に格納できます。デフォルトの保有期間は **70 日間**です。バックアップおよび復元機能により、圧縮されたバックアップ形式でデータを保存できます。システムまたはディスクの破損後にデータベースを復元する必要がある場合は、保存済みのデータを使用できます。

- **BI サーバー**

BI サーバーにより、定義済みのレポートテンプレートを使用して、DBMS で利用可能なデータに基づく、洞察力に富んだ Web ベースのレポートを作成できるようになります。BI サーバーにより、デフォルトではないアドホック クエリおよびバックグラウンドレポートのスケジュールを設計および保存できます。BI Server Portal で定期レポートを発行できます。また、定期レポートを電子メールで送信するように BI サーバーを設定することもできます。

- **拡張パック**

拡張パックは、さまざまなソースから収集されたデータを使用してレポートを作成するためのルールおよび定義を提供します。デフォルトで NPS に付属しているすぐに利用可能な拡張パックである自己診断拡張パックは、NPS のさまざまなコンポーネントおよびプロセスの稼働状態とパフォーマンスを示すレポートを表示するのに役立ちます。

インストールの概要

NPS は、NNMi 管理サーバーまたは専用のスタンドアロン サーバーにインストールできます。『Network Performance Server 対応マトリックス』ドキュメントに記載されているサイジングのガイドラインに基づいて、要件に適合するオプションを選択できます。



iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) をインストールして実行しているシステムには、NPS をインストールしないでください。このようなシステムに NPS をインストールする場合は、iSPI for Performance を完全に削除し、システムを再起動してからインストール手順を開始してください。

NPS を使用する場合は、iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) のインスタンスで設定済みの NNMi 管理サーバーを使用しないでください。ただし、以下のアップグレードパスに従うことは可能です。

- 1 NNM iSPI Performance for Metrics 8.13 から NPS/NNM iSPI Performance for Metrics 9.00 へのアップグレード
- 2 NNM iSPI Performance for Metrics 9.00 から NPS/NNM iSPI Performance for Metrics 9.10 へのアップグレード

NNMi 管理サーバーへのインストール

NPS を NNMi 管理サーバーにインストールする場合、インストーラ プログラムを実行します。この状況でのインストール プロセスは比較的簡単です。

インストーラによって、NNM iSPI Performance for Metrics のインストール オプションが提供されます。NPS のインストール中に NNM iSPI Performance for Metrics のインストールをキャンセルすることもできます。また、必要であれば、後から NPS システムに NNM iSPI Performance for Metrics をインストールすることもできます。

専用サーバーへのインストール

インストーラ プログラムの実行に加え、このインストール オプションでは、次のユーティリティを使用して追加の設定手順を実行する必要があります。

- **有効化スクリプト**
NNMi 管理サーバーで使用できる有効化スクリプト (NNMi インストーラによってシステムに配置される) は、NNMi と NPS 間の通信を促進します。
- **Configuration Utility**
NPS のインストール プロセスにより、**Configuration Utility** がシステムに導入されます。**Configuration Utility** により、NPS プロセスと NNMi 管理サーバーとの円滑な通信を可能にする情報を指定できるようになります。

追加情報について

追加情報については、次の HP ソースを参照してください。

- *Network Performance Server* オンライン ヘルプ
 - トラブルシューティングのヒント
 - NPS ユーティリティ
 - レポートの説明とユースケース シナリオ
- *Network Node Manager i Software* デプロイメント リファレンス
- *Network Node Manager i Software* リリース ノート
- *Network Node Manager i Software* 対応マトリックス

ドキュメントの表記規則

NPS のドキュメントでは、次の表記規則を使用します。

表 1 NPS ドキュメントの表記規則

記号	意味
<code>%NPSInstallDir%</code>	Windows のみ。NPS アプリケーション ディレクトリの環境変数です。この値は、NPS インストーラにより自動的に生成されます。

表 1 NPS ドキュメントの表記規則

記号	意味
<i>%NPSDataDir%</i>	<p><i>Windows</i> のみ。NPS データ ディレクトリ。</p> <p>NNMi 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS インストーラは <i>%NPSDataDir%</i> をデータ ディレクトリとして使用します。</p>
<i>%nnminstalldir%</i>	<p><i>Windows</i> のみ。NNMi アプリケーション ディレクトリの環境変数です。この変数は、NNMi インストーラにより自動的に生成されます。</p> <p>NNMi (Windows) 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS アプリケーション ファイルの格納先となる <i>%NPSInstallDir%</i> がここに作成されます。</p>
<i>%nnmdatadir%</i>	<p><i>Windows</i> のみ。NNMi データ ディレクトリの環境変数です。この変数は、NNMi インストーラにより自動的に生成されます。</p> <p>NNMi (Windows) 管理サーバーに NPS をインストールする場合、NPS 設定ファイルおよびデータ ファイルの格納先となる <i>%NPSDataDir%</i> がここに作成されます。</p>

Linux では、必要なファイルが NPS インストーラにより次のディレクトリに直接インストールされます。

- アプリケーション ファイル: /opt/OV
- データ ファイルおよび設定ファイル: /var/opt/OV

2 前提条件とプランニング

インストールを開始する前に、すべての前提条件が満たされていることを確認してください。要件を評価して、環境に最も適したインストール オプションを指定します。次に、インストールプランを段階的に作成できます。

前提条件

▶ NPS インストーラにより、次の前提条件が満たされているかどうか確認するためのチェックが実行されます。

- **プライマリ ドメイン名システム (DNS) サフィックス**

NPS をインストールするシステムには、プライマリ DNS サフィックスが設定されている必要があります。また、システムは、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用してネットワークで到達可能である必要があります。

- **ポートが利用可能であること**

NPS では、ポート 9300、9301、9302、9303、および 9304 を使用して異なるプロセスを実行します。インストール前に、これらのポートが空いていることを確認してください。システムで使用されているポートを確認するには、**netstat** コマンドを実行します。

また、次のアプリケーションと変数をシステムから削除してください。

- **Cygwin**

Cygwin ソフトウェアがシステムに存在しないことを確認してください。

- **JAVA_HOME**

サードパーティ製の **Java Runtime Environment (JRE)** がある場合、サードパーティ製の JRE が NPS に付属の組み込み JRE と互換性がないと、インストール エラーやランタイムエラーが発生することがあります。これらのエラーを回避するには、**JAVA_HOME** 環境変数がシステムに設定されていないことを確認します。

インストールのプランニング

インストールプランでは、インストール プロセスのための準備を行い、インストールの完了に必要なすべての情報を収集できます。要件を確認してインストール オプション (管理サーバーまたは専用サーバーへのインストール) を確定した後に、インストールのプランを作成します。

NNMi のバージョン

NPS 9.00 は、NNMi 9.00 でのみ使用できます。NNMi を 9.00 にアップグレードしてから、NPS をインストールしてください。

NNMi のバージョンを確認するには、次の手順に従います。

- 1 NNMi コンソールにログオンします。
- 2 [ヘルプ] → [HP Network Node Manager i Software について] をクリックします。
- 3 バージョンが 9.00 であることを確認します。

プラットフォームの組み合わせ

専用サーバーにこの製品をインストールする場合、NPS と管理サーバーのプラットフォームの組み合わせがサポートされていることを確認してください。

次のオペレーティング システムのいずれかで動作している NNMi 管理サーバーを使用してください。

- Windows
- Linux
- SUSE Linux: このプラットフォームでは NNMi のみがサポートされており、NPS はサポートされていません。
- HP-UX: このプラットフォームでは NNMi のみがサポートされており、NPS はサポートされていません。
- Solaris: このプラットフォームでは NNMi のみがサポートされており、NPS はサポートされていません。

表 2 プラットフォームの組み合わせ

NPS メディア	サポートされる NNMi プラットフォーム
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Linux• SUSE Linux• HP-UX• Solaris
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Windows• Linux• SUSE Linux• HP-UX• Solaris

サポートされるオペレーティングシステムの詳細については、『HP Network Node Manager iSPI Performance for Metrics/Network Performance Server システムとデバイス対応マトリックス』を参照してください。

ファイル共有メカニズム

NPS を専用サーバーにインストールする場合、NPS と NNMi 管理サーバー間のファイル共有メカニズムを有効にする必要があります。

インストールの最後に、次のいずれかのファイル共有技術がプラットフォームの組み合わせに応じて有効になります。

表 3 NNMi および NNMi で使用されるファイル共有技術 NPS

NNMi 管理サーバー	NPS	ファイル共有技術
Windows	Windows	Windows ネットワーク共有
Linux、HP-UX、または Solaris	Windows	Server Message Block (SMB)

Windows ネットワーク共有と SMB 共有では、十分な権限のあるユーザー アカウントが必要です。有効化スクリプトを利用して、ユーザー アカウントを作成できます。

Samba ソフトウェアを使用したファイル共有

SMB 共有を使用するには、Samba ソフトウェア (オペレーティング システムに付属) が NNMi 管理サーバーにインストールされている必要があります。

SMB 共有は、次のシナリオでは動作しない場合があります。

- Security-Enhanced Linux (SELinux) で NNMi 管理サーバーが実行されている。
- サーバーまたはネットワークでファイアウォールが実行されている。

SMB 共有を使用するには、セキュリティ ポリシーまたはファイアウォール設定で、SMB トラフィックに対する例外を設定する必要があります。

ドメイン名

NPS を専用サーバーにインストールする場合、NNMi 管理サーバーと専用サーバーのドメイン名が同じである必要があります。

専用サーバーと NNMi 管理サーバーが、たとえば、**hp.com** などの同じ DNS ドメインに属していることを確認します。異なるサブドメイン内のメンバーシップも許可されますが、親ドメインは同一である必要があります。たとえば、次のシステムは NNMi 管理サーバーおよび NPS システムとして使用できます。

- nnm.hp.com
- iSPI.hp.com

インストール前のチェックリスト

インストール前のチェックリスト (16 ページの表 4 を参照) は、インストール前のすべての作業が完了していることを確認するのに便利です。

表4 インストール前のチェックリスト

作業	参照ドキュメント/ トピック	チェック欄 (はい/ いいえ)
管理サーバーまたは専用サーバーへのインストール オプションを指定する。	<i>Network Performance Server</i> 対応マトリックス	
iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) が、NPS をインストールするシステムに存在していないことを確認する。		
NNMi のバージョンが 9.00 であることを確認する。		
NNMi が iSPI for Performance (8.00/8.01/8.11) のインスタンスで設定されていないことを確認する。		
製品をインストールするシステムがシステム要件を満たしていることを確認する。	<i>Network Performance Server</i> 対応マトリックス	
製品をインストールするシステムが前提条件を満たしていることを確認する。	前提条件 (13 ページ)	
専用サーバーへのインストールのみ: サポートされるプラットフォームの組み合わせを選択していることを確認する。	プラットフォームの組み合わせ (14 ページ)	
専用サーバーへのインストールのみ: Linux、HP-UX、または Solaris で実行している NNMi 管理サーバーを使用する場合、管理サーバーに Samba ソフトウェアがインストールされていることを確認する。	ファイル共有メカニズム (15 ページ)	

表 4 インストール前のチェックリスト

作業	参照ドキュメント/ トピック	チェック欄 (はい/ いいえ)
専用サーバーへのインストールのみ: 管理サーバーと専用サーバーが同じ DNS ドメインに属していることを確認する。専用サーバーの FQDN を書き留めます。	ドメイン名 (15 ページ)	
専用サーバーへのインストールのみ: セキュリティが有効な Linux を NNMi 管理サーバーとして使用する場合は、SELinux 管理サーバー上の SMB トラフィックを例外に設定したセキュリティポリシーを作成するようにしてください。	プラットフォームの組み合わせ (14 ページ)	
専用サーバーへのインストールのみ: Linux 管理サーバーを使用する場合、ファイアウォールがサーバーまたはネットワーク上に構築されている場合は、SMB を例外に設定したファイアウォール設定に変更するようにしてください。		

表 4 で指定されているすべての作業を完了したら、インストール手順を開始してください。

シングルサインオン

NPS をインストールすると、シングルサインオン (SSO) として知られるセキュリティメカニズムが有効になります。SSO を使用すると、NPS は、NNMi コンソールが認識するのと同じユーザー名およびパスワードを認識できるようになります。SSO が有効になると、NNMi にすでにログインしているユーザーは、再度ログオンすることなく NNMi から iSPI レポートに移動できます。

SSO が機能するには、NPS および NNMi が同じドメイン名を共有し、NNMi を起動する URL に、NNMi の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を含める必要があります。ブラウザで、ユーザーが修飾されていないホスト名を使用する URL に接続すると、SSO サブレットによりエラーページが表示され、NNMi URL の完全修飾ホスト名を使用してレポートを起動するよう要求されます。

FQDN ではなく NNMi 管理サーバーの IP アドレスを使用する場合、インストール時に適宜 NNMi を設定するか、または `nnmsetofficialfqdn.ovpl <ipaddress>` コマンドを使用して NNMi の FQDN を IP アドレスに設定する必要があります。

NNMi と NPS が同じサーバーにインストールされ、NNMi が FQDN でまだ設定されていない場合、URL で NNMi の IP アドレスを使用することで、NNMi からレポートに移動するときにログオン ウィンドウやエラーメッセージが再度表示されることはなくなります。

3 NNMi 管理サーバーへのインストール

NPS を専用サーバーにインストールする場合は、この章をスキップして専用サーバーへのインストール (27 ページ) に移動してください。

インストール プロセスを開始する前に、サーバーでバージョン 9.10 の NNMi が実行されていることを確認してください。

HP が配布する DVD に NPS がない場合は、HP から ISO イメージをダウンロードできます。ファイルをダウンロードしたら、ドライブにイメージをマウントするか、DVD を作成します。CD を直接作成するには、ISO イメージファイルを作成するように設計されているソフトウェアをインストールする必要があります。



ターミナルサーバーセッションまたはリモートデスクトップ接続を使用して NPS/NNM iSPI Performance for Metrics をインストールする場合は、次のドライブタイプに ISO イメージをダウンロードしないようにしてください。

- ネットワークドライブ
- 取り外し可能なメディア

NPS のインストール

NPS をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 管理者権限で管理サーバーにログオンします。
- 2 DVD ドライブに NPS インストール メディアを挿入します。
メディア ルートから、**setup.exe** ファイルを実行します。
インストールウィザードが開きます。
[アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが表示された場合、警告メッセージを確認し、適切な措置を行い [**続行**] をクリックします。
- 3 [はじめに] ページで、[**次へ**] をクリックします。[ライセンス契約] ページが開きます。
- 4 [ライセンス契約] ページで、[**ライセンス契約の条項に同意します**] を選択して、[**次へ**] をクリックします。[機能の選択] ページが開きます。このページには、NNM iSPI Performance for Metrics を有効化せずに NPS をインストールするオプションが表示されます。
- 5 [機能の選択] ページで、NNM iSPI Performance for Metrics を使用する場合は、[HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。インストーラで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにすると、システムに NNM iSPI Performance for Metrics がインストールされません。
- 6 [**次へ**] をクリックします。インストーラ プログラムがシステム チェック プロセスを開始して、システム要件を満たしているかどうかを確認します。

- 7 インストール チェックに成功したら、**[次へ]** をクリックします。[プレインストールの概要] ページが開きます。
- 8 [プレインストールの概要] ページで、**[インストール]** をクリックします。インストール プロセスが開始されます。
- 9 インストール プロセスが完了したら、**[完了]** をクリックします。

NPS でのセキュリティで保護された送信モードの有効化

NPS をインストールしたら、NPS でセキュリティで保護された送信モード (つまり、HTTP の代わりに HTTPS) を使用する必要があるかどうかを指定できます。デフォルトでは、送信モードはセキュリティで保護されない HTTP です。

NPS と NNMi では、それぞれ異なる送信モードを使用できます。デフォルトにより、NNMi では、セキュリティで保護された送信モードがインストール中に有効化されます。NNMi の使用中は、HTTP または HTTPS のいずれかを使用できます。ただし、NPS に対しては HTTPS を有効化する必要があります。

セキュリティで保護された送信モードを有効にすると、NPS では Secure Sockets Layer (SSL) を使用した HTTPS が使用され、NNM iSPI Performance for Metrics サーバーとクライアント Web ブラウザ間の送信セキュリティが向上します。

セキュリティで保護された送信モードを、NPS で、有効化、無効化、または設定するには、次のコマンドを使用します。

configureWebAccess.ovpl

configureWebAccess.ovpl コマンドは、デフォルトでは、次のポート番号を使用します。

- HTTP: 9300
- HTTPS: 9305

HTTPS および HTTP ポートを有効化、無効化、設定するには、次の手順を実行します。

- 1 次の場所にあるコマンドを実行します。

Windows: %NPSInstallDir%\bin\configureWebAccess.ovpl

- 2 ユーティリティによって表示されるメッセージに応答します。

ユーティリティが異常終了した場合は、次のログ ファイルを確認してください。

- **Windows:** %NPSDataDir%\logs\prspi.log

セキュリティで保護された接続モードが有効化されているかどうかの確認

次のコマンドを実行します。

configureWebAccess.ovpl -h

送信モードが表示されます。

HTTPS プロトコルでは、次のポートを使用しないようにしてください。

- 9300
- 9301
- 9302

- 9303
- 9004

HTTP プロトコルでは、次のポートを使用しないようにしてください。

- 9301
- 9302
- 9303
- 9304

高可用性 (HA) クラスタへの NPS のインストール

高可用性 (HA) クラスタに NNMi をインストールすると、NPS をアドオン製品として NNMi 管理サーバーにインストールおよび設定できます。HA クラスタに NPS をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 アクティブ ノードで次のコマンドを実行し、NNMi サービスがすべて実行されていることを確認します。

```
ovstatus -c
```

- 2 アクティブノードで、[NPS のインストール \(19 ページ\)](#) の手順に従って NPS をインストールします。
- 3 **stopALL.ovpl** コマンドを実行して NPS を停止します。
- 4 Windows 管理者ユーザーグループのメンバーで、あらかじめ登録された Administrator アカウントを使用していない場合は、アクティブノードで次の手順に従います。

a [スタート]>[管理ツール]>[サービス]に移動します。

b [サービス] ウィンドウで、[NNM iSPI Performance ETL Server] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカルシステム) を [アカウント] に変更した後、使用しているユーザーアカウントの資格情報を指定します。

- 5 アクティブ ノードで次のコマンドを実行します。

Windows の場合:

```
%nnminstalldir%\misc\%nm\%ha\%nmhaconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA
```



nmhaconfigure.ovpl コマンドはインタラクティブ コマンドで、HA 環境に関する詳細を指定する必要があります。nmhaconfigure.ovpl コマンドの詳細については、『Network Node Manager i Software 9.10 デプロイメント リファレンス』を参照してください。

- 6 設定を確認します。

次のコマンドを実行します。

Windows の場合:

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm\%ha%\nnmhaclusterinfo.ovpl -config NNM -get  
NNM_ADD_ON_PRODUCTS
```

PerfSPIHA を参照してください。

- 7 パッシブノードごとに、[NPS のインストール \(19 ページ\)](#) の手順に従って NPS をインストールします。
- 8 **stopALL.ovpl** コマンドを実行して NPS を停止します。
- 9 Windows 管理者ユーザーグループのメンバーで、あらかじめ登録された Administrator アカウントを使用していない場合は、各パッシブノードで次の手順に従います。
 - a **[スタート]>[管理ツール]>[サービス]** に移動します。Windows Server 2008 管理者権限でログインするようにしてください。
 - b **[サービス]** ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
 - c デフォルトの **[ログオン]** 設定 (ローカルシステム) を **[アカウント]** に変更した後、使用しているユーザーアカウントの資格情報を指定します。
- 10 パッシブノードごとに次のコマンドを実行します。

Windows の場合:

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm\%ha%\nnmhaconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA
```



nnmhaconfigure.ovpl コマンドでは、パッシブノードでコマンドを実行するとき、**HA** リソースグループ名を指定する必要があります。nnmhaconfigure.ovpl コマンドの詳細については、『[Network Node Manager i Software 9.10 デプロイメントリファレンス](#)』を参照してください。

- 11 設定を確認します。
パッシブノードごとに次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm\%ha%\nnmhaclusterinfo.ovpl -config NNM -get  
NNM_ADD_ON_PRODUCTS
```

カスタム収集拡張パックを作成した場合は、さらに次のタスクを実行します。

- 1 アクティブノードで、次のディレクトリに移動します。

```
%nnminstalldir%\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi
```
- 2 ディレクトリで使用可能なプロパティファイル (拡張子が .properties のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブノードごとに同じディレクトリに転送します。

アプリケーションのスムーズなフェイルオーバーを行うために、同一 **HA** グループ内のすべてのホストで、セキュリティで保護された送信モード (**HTTPS**) の設定が一致していることを確認してください。同一 **HA** グループ内の各ホストは、送信プロトコル、ポート番号、デジタル証明書の設定が一致していなければなりません。

NNM iSPI Performance for Metrics のインストール

NPS のインストール時に NNM iSPI Performance for Metrics をインストールすることを選択した場合、このセクションをスキップします。

インストール時に NNM iSPI Performance for Metrics をインストールしないことを選択した場合、後からインストールできます。NNM iSPI Performance for Metrics をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 2 NPS メディアから、`setup.exe` ファイルを実行します。
- 3 [メンテナランスの選択] ページで [修正] を選択します。
- 4 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。

インストーラにより、システムに NNM iSPI Performance for Metrics がインストールされます。

または、`/opt/OV/NNMPerformanceSPI/bin%nnminstalldir%¥bin` ディレクトリにある次のコマンドを実行することもできます。

metricsExtensionPacks.ovpl install



HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

- 1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 2 `%nnminstalldir%¥bin` ディレクトリにある有効化スクリプト (`nnmenableperfspi.ovpl`) を実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **y** と答えます。

iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？

- 3 アクティブノードで、
`%nnminstalldir%¥nonOV¥cognos¥c8¥webapps¥PerfSpi¥WEB-INF¥classes¥com¥hp¥ov¥perfspi` ディレクトリからプロパティファイル (拡張子が `.properties` のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブノードの同じディレクトリに転送します。

NNM iSPI Performance for Metrics の無効化

他の iSPI Performance 製品で NPS を使用して NNM iSPI Performance for Metrics を使用しない場合は、NPS を削除せずに NNM iSPI Performance for Metrics を無効にすることができます。

NNM iSPI Performance for Metrics を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 2 NPS メディアから、`setup.exe` ファイルを実行します。
- 3 [メンテナランスの選択] ページで [修正] を選択します。
- 4 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにします。

インストーラにより、システムで **NNM iSPI Performance for Metrics** が無効になります。
または、`%nnminstalldir%\bin` ディレクトリにある次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl uninstall
```



HA クラスタに **NNMi** と **NPS** がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

- 1 管理者権限で **NNMi** 管理サーバーにログオンします。
- 2 `%nnminstalldir%\bin` ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **N** と答えます。

iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？

NPS の削除

管理サーバーから **NPS** を削除するには、次の手順に従います。



さまざまな **iSPI Performance** 製品で作成されたレポートを引き続き使用する場合は、**NPS** を削除しないでください。環境内で **NPS** が使用できないと、レポートを使用できません。

- 1 管理者権限で管理サーバーにログオンします。
- 2 **NNMi** が実行されていることを確認します。
- 3 [スタート]メニューから、[すべてのプログラム] → [HP] → [NNM iSPI Performance] → [アンインストール] をクリックしてください。ウィザードが開きます。
[アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが開いた場合、警告メッセージを確認し、適切な対処をとり、[続行] をクリックします。
- 4 ようこそページが開きます。[OK] をクリックします。
- 5 [アプリケーションのメンテナンス] ページで、[アンインストール] を選択して、[次へ] をクリックします。[プレアンインストールの概要] ページが開きます。
- 6 [プレアンインストールの概要] ページで、[アンインストール] をクリックします。プログラムによってシステムからの **NPS** の削除が開始されます。
- 7 **NPS** が完全に削除されたら、[完了] をクリックします。この削除プロセスでは、**NPS** のすべてのコンポーネントがシステムから削除されます。

Windows サーバーにおいて後続の再インストールに関する問題を回避するには、**NPS** をアンインストールした後で次のタスクを実行します。

- 1 Windows サーバーを再起動します。
- 2 `%NPSDataDir%\NNMPerformanceSPI` フォルダが削除されていることを確認します。

HA クラスタからの NPS の削除

HA クラスタから NPS を削除するには、次のタスクを実行します。

タスク 1: パッシブ ノードから NPS を削除する

パッシブ ノードごとに、次の手順に従います。

- 1 管理者権限でパッシブ ノードにログオンします。
- 2 次のコマンドを実行して、パッシブ NNMi 管理サーバーで NPS の HA 設定を無効にします。
`%nnminstallDir%\misc\%nnm\%ha\%nnmhaunconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA`
- 3 すべての NPS プロセスを停止するために、以下のコマンドを実行してください。
`%NPSInstallDir%\bin\stopALL.ovpl`
- 4 **NPS の削除 (24 ページ)** の指示に従って、ノードから NPS を削除します。

タスク 2: アクティブ ノードから NPS を削除する

- 1 管理者権限でアクティブ ノードにログオンします。
- 2 次のコマンドを実行して、アクティブ NNMi 管理サーバーで NPS の HA 設定を無効にします。
`%nnminstallDir%\misc\%nnm\%ha\%nnmhaunconfigure.ovpl NNM -addon PerfSPIHA`
- 3 すべての NPS プロセスを停止するために、以下のコマンドを実行してください。
`%NPSInstallDir%\bin\stopALL.ovpl`
- 4 **NPS の削除 (24 ページ)** の指示に従って、アクティブノードから NPS を削除します。

4 専用サーバーへのインストール

NPS を専用サーバーにインストールする場合、最初に NNMi 管理サーバーで有効化スクリプトを実行し、次に専用サーバーでインストーラプログラムを実行する必要があります。

HP が配布する DVD に NPS がない場合は、HP から ISO イメージをダウンロードできます。ファイルをダウンロードしたら、ドライブにイメージをマウントするか、DVD を作成します。CD を直接作成するには、ISO イメージファイルを作成するように設計されているソフトウェアをインストールする必要があります。



ターミナルサーバーセッションまたはリモートデスクトップ接続を使用して NPS/NNM iSPI Performance for Metrics をインストールする場合は、次のドライブタイプに ISO イメージをダウンロードしないようにしてください。

- ネットワークドライブ
- 取り外し可能なメディア

有効化 スクリプトの実行

専用サーバーへのインストールを開始する前に、有効化スクリプトを NNMi 管理サーバーで実行する必要があります。NNMi のバージョンは 9.10 である必要があります。有効化スクリプトは、NNMi インストーラにより管理サーバーに配置されています。

Windows 管理サーバーでの実行

Windows NNMi 管理サーバーを使用する場合、次の手順に従います。

1 管理者権限で MMNi 管理サーバーにログオンします。

2 次の場所に移動します。

```
%nnminstalldir%\bin
```

3 nmenableperfspi.ovpl スクリプトを実行します。有効化スクリプトが起動し、インタラクティブ モードで動作します。スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

```
iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？
```

4 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。

n を選択した場合、NNM iSPI Performance for Metrics の拡張パックは無効化されたままになります。

```
スクリプトに、次のメッセージが表示されます。
```

```
開始しますか？
```

- 5 **Y** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、NNMi が実装されているローカルシステムに **NPS** をインストールするかどうかを尋ねられます。
- 6 **N** と入力して **ENTER** キーを押します。スクリプトにより、**NPS** をインストールするシステムの **FQDN** の入力を求められます。
- 7 **FQDN** を入力して **ENTER** キーを押します。

FQDN のみを使用し、**IP** アドレスは使用しないでください。**NPS** を **HA** クラスタにインストールして設定する場合、クラスタの仮想ホスト名を指定して、**NPS HA** リソース グループを設定して開始した後にこのスクリプトを実行することを確認してください。

スクリプトに、次のメッセージが表示されます。

SSL は iSPI Performance マシンで有効化されていますか (または有効化されますか) ?
(Y/N) :

- 8 **Y** と入力します。すると、スクリプトに次のメッセージが表示されます。
iSPI のデフォルトのポートは 9300 です。
このポートを使用する場合は [戻る] を押します。
- 9 **ENTER** キーを押します。スクリプトによって、システムに **NPS** 共有を追加するかどうかを尋ねられます。
- 10 **Y** と入力します。スクリプトにより、次の場所に共有が作成されます。

```
%NnmDataDir%\$shared¥perfSpi
```

NPS は、専用サーバーからこの場所にアクセスして **NNMi** によって収集されたデータを取得します。

- 11 スクリプトによって、新しいユーザーのユーザー名の入力を求められます。このユーザーは、**NNMi** 管理サーバーに作成されます。**NPS** はこのユーザー名を使用して共有場所にアクセスします。ユーザー名と対応するパスワードをプロンプトに入力します。選択したユーザー名とパスワードは、**NNMi** 管理サーバーおよび **NPS** システムで、実質的にパスワードの強度に関するポリシーを満たしている必要があります。
このプロンプトで入力したユーザー名とパスワードを書き留めます。このユーザーに関する詳細は、専用サーバーの **NPS** でも指定する必要があります。
- 12 システムに既存の共有がある場合、スクリプトに次のメッセージが表示されます。

PerfSpi 共有はすでに作成されています。

削除してから、再作成しますか？

Y と入力します。スクリプトにより共有が削除され、新しく作成されたユーザー用の共有が再作成されます。

- 13 有効化スクリプトが停止します。スクリプトのサマリに、共有パス (**NPS** がアクセスする) が次の形式で表示されます。

```
¥¥<FQDN>¥PerfSpi
```

この場所を書き留めておき、今後まったく同じ形式で専用サーバーの **NPS** で使用します。

管理サーバーで実行中に、スクリプトによって次のタスクが実行されます。

- 選択に応じて、**NNM iSPI Performance for Metrics** のインスタントオン ライセンスを有効にします。

- [レポート - レポートメニュー] という新しい項目を NNMi コンソールの [アクション] メニューに追加する。
- 管理サーバーで場所を共有する。
- 管理サーバーで新しいユーザーを作成する。
- NPS のシングル サインオン セキュリティを有効にする。

14 Y と入力します。すると、スクリプトに次のメッセージが表示されます。

Samba 共有

Windows NPS メディアを使用しているため、このオプションを選択します。スクリプトによって、新しいユーザー名 (NNMi ユーザーではなくシステム ユーザー) の入力を求められます。このユーザーは、NNMi 管理サーバーに作成されます。NPS は、このユーザー名を使用して共有場所にアクセスします。ユーザー名と対応するパスワードをプロンプトに入力します。選択したユーザー名とパスワードは、NNMi 管理サーバーおよび NPS システムで、パスワードの強度に関して施行されているポリシーを満たしている必要があります。このプロンプトで入力したユーザー名とパスワードを書き留めます。このユーザーに関する詳細は、専用サーバーの NPS でも指定する必要があります。NPS のインストール

専用サーバーでこの手順を実行する必要があります。NPS のインストーラ プログラムを実行するには、次の手順に従います。

- 1 管理者権限で専用サーバーにログオンします。
- 2 DVD ドライブに NPS インストール メディアを挿入します。
メディア ルートから、setup.exe ファイルを実行します。
インストール ウィザードが開きます。
[アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログ ボックスが表示された場合、警告メッセージを確認し、適切な措置を行い [続行] をクリックします。[ライセンス契約] ページが開きます。
- 3 [ライセンス契約] ページで、[ライセンス契約の条項に同意します] を選択して、[次へ] をクリックします。[機能の選択] ページが開きます。このページには、NNM iSPI Performance for Metrics を有効化せずに NPS をインストールするオプションが表示されます。
- 4 [機能の選択] ページで、NNM iSPI Performance for Metrics を使用する場合は、[HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。インストーラで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにすると、システムで NNM iSPI Performance for Metrics が無効になります。
[次へ] をクリックします。
[アプリケーションおよびデータ フォルダの選択] ページが開きます。
- 5 [アプリケーションおよびデータ フォルダの選択] ページで、必要に応じてこれらのフォルダのデフォルト以外の場所を指定できます。
デフォルトでは、インストーラ プログラムによってこれらのフィールドが次の場所に設定されます。
 - アプリケーション フォルダ: C:\Program Files (x86)\HP\HP BTO Software
 - データ フォルダ:
 - Windows 2008 の場合:

- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 インストーラ プログラムがシステム チェック プロセスを開始して、システム要件を満たしているかどうかを確認します。
- 8 インストール チェックに成功したら、[次へ] をクリックします。[プレインストールの概要] ページが開きます。
- 9 [プレインストールの概要] ページで、[インストール] をクリックします。インストール プロセスが開始されます。
- 10 インストール プロセスの最後に、**Configuration Utility** が開きます。**Configuration Utility** で、次の手順に従います。
 - a [指定ユーザー アカウント] オプションを選択します。
 - b 有効化スクリプトによって作成されたユーザー名とパスワードを指定します。

有効化スクリプトによって **NNMi** 管理サーバーに作成された共有場所へのパスを指定します。形式は、有効化スクリプトのサマリに表示されている形式と同じものを使用してください。詳細データのアーカイブの保有期間を指定します。このパラメータには、システムリソースに応じて値を選択してください。データ保有タイプごとに必要とされるストレージの詳細については、を参照してください。
 - c [適用] をクリックします。
 - d [開始] をクリックして、専用サーバーの **NPS** に必要なプロセスを開始します。
- 11 インストール プロセスが完了したら、[完了] をクリックします。

NPS でのセキュリティで保護された送信モードの有効化

NPS をインストールしたら、**NPS** でセキュリティで保護された送信モード (つまり、**HTTP** の代わりに **HTTPS**) を使用する必要があるかどうかを指定できます。デフォルトでは、送信モードはセキュリティで保護されない **HTTP** です。

NPS と **NNMi** では、それぞれ異なる送信モードを使用できます。デフォルトにより、**NNMi** では、セキュリティで保護された送信モードがインストール中に有効化されます。**NNMi** の使用中は、**HTTP** または **HTTPS** のいずれかを使用できます。ただし、**NPS** に対しては **HTTPS** を有効化する必要があります。

セキュリティで保護された送信モードを有効にすると、**NPS** では **Secure Sockets Layer (SSL)** を使用した **HTTPS** が使用され、**NNM iSPI Performance for Metrics** サーバーとクライアント Web ブラウザ間の送信セキュリティが向上します。

セキュリティで保護された送信モードを、**NPS** で、有効化、無効化、または設定するには、次のコマンドを使用します。

configureWebAccess.ovpl

configureWebAccess.ovpl コマンドは、デフォルトでは、次のポート番号を使用します。

- **HTTP: 9300**
- **HTTPS: 9305**

HTTPS および **HTTP** ポートを有効化、無効化、設定するには、次の手順を実行します。

- 1 次の場所にあるコマンドを実行します。

Windows: %NPSInstallDir%\bin\configureWebAccess.ovpl

- ユーティリティによって表示されるメッセージに応答します。
ユーティリティが異常終了した場合は、次のログ ファイルを確認してください。
- Windows:** %NPSDataDir%\logs\prspi.log

セキュリティで保護された接続モードが有効化されているかどうかの確認

次のコマンドを実行します。

configureWebAccess.ovpl -h

送信モードが表示されます。

HTTPS プロトコルでは、次のポートを使用しないようにしてください。

- 9300
- 9301
- 9302
- 9303
- 9004

HTTP プロトコルでは、次のポートを使用しないようにしてください。

- 9301
- 9302
- 9303
- 9304

NNM iSPI Performance for Metrics のインストール

NPS のインストール時に *NNM iSPI Performance for Metrics* をインストールすることを選択した場合は、このセクションをスキップしてください。

インストール時に *NNM iSPI Performance for Metrics* をインストールしないことを選択した場合、後からインストールできます。*NNM iSPI Performance for Metrics* をインストールするには、次の手順に従います。

- ルートまたは管理者権限で *NNMi* 管理サーバーにログオンします。
- `%nnminstalldir%\bin` ディレクトリにある有効化スクリプト (`nnmenableperfspi.ovpl`) を実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **Y** と答えます。

iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？
- 管理者権限で *NPS* システムにログオンします。
- NPS* メディアから、`setup.exe` ファイルを実行します。
- [メンテナンスの選択] ページで [修正] を選択します。

- 6 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオンにします。

インストーラにより、システムに NNM iSPI Performance for Metrics がインストールされます。

または、NPS システムの `%nninstalldir%\bin` ディレクトリにある次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl install
```



HA クラスタに NNMi と NPS がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

- 1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 2 `%nninstalldir%\bin` ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **y** と答えます。
iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？
- 3 アクティブノードで、
`%nninstalldir%\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi` ディレクトリからプロパティファイル (拡張子が `.properties` のファイル) をすべてコピーし、それらのファイルをパッシブノードの同じディレクトリに転送します。

NNM iSPI Performance for Metrics の無効化

他の iSPI Performance 製品で NPS を使用して NNM iSPI Performance for Metrics を使用しない場合は、NPS を削除せずに NNM iSPI Performance for Metrics を無効にすることができます。

NNM iSPI Performance for Metrics を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 ルートまたは管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 2 `%nninstalldir%\bin` ディレクトリにある有効化スクリプト (`nnmenableperfspi.ovpl`) を実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **n** と答えます。
iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？
- 3 管理者権限で NPS メディアにログオンします。
- 4 NPS メディアから、`setup.exe` ファイルを実行します。
- 5 [メンテナサンスの選択] ページで [修正] を選択します。
- 6 画面上の指示に従います。[機能の選択] ページで [HP NNM NNM iSPI Performance for Metrics - 拡張パック] チェックボックスをオフにします。

インストーラにより、システムで NNM iSPI Performance for Metrics が無効になります。

または、`%nninstalldir%\bin` ディレクトリにある次のコマンドを実行することもできます。

```
metricsExtensionPacks.ovpl uninstall
```




HA クラスタに **NNMi** と **NPS** がインストールされている場合、アクティブ ノードでのみ前述の手順を実行します。パッシブ ノードごとに、次のタスクを実行します。

- 1 ルートまたは管理者権限で **NNMi** 管理サーバーにログオンします。
- 2 %nnminstalldir%\bin ディレクトリから、有効化スクリプトを実行します。有効化スクリプトの実行中、次の質問に対して **n** と答えます。
iSPI Metrics 評価ライセンスも有効にしますか？

HA クラスタへの NPS のシステムのインストール

HA クラスタで実行する専用サーバーに **NPS** をインストールする場合、次の展開オプションのいずれかを選択できます。

- オプション 1: **NPS** システムが **HA** クラスタにある
- オプション 2: **NNMi** 管理サーバーのみが **HA** クラスタにある

Windows Server 2008 の場合は、管理者権限を持つドメインアカウントを使用して **NPS** をインストールし、**HA** グループを設定する必要があります。

オプション 1: HA クラスタに NPS をインストールする

HA クラスタに **NPS** のみをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 **NPS** をインストールするシステムで **HA** クラスタを設定します。
- 2 次のクラスタの詳細を取得します。
 - クラスタの仮想ホスト名。仮想ホスト名は、クラスタの仮想 IP アドレスにマッピングされている必要があります。
 - クラスタの **HA** リソース グループ
 - 共有ファイル システムのファイル システム タイプ
 - **NPS** 共有ディスクのマウントポイント
- 3 **29 ページ** の指示に従って、管理サーバーで有効化スクリプトを実行せずに、クラスタのプライマリノードに **NPS** をインストールします。ただし、サービスは開始しないでください。**Configuration Utility** のエラーを無視します。
- 4 **Windows** 管理者ユーザーグループのメンバーで、あらかじめ登録された **Administrator** アカウントを使用していない場合は、アクティブノードで次の手順に従います。
 - a **[スタート]>[管理ツール]>[サービス]** に移動します。
 - b **[サービス]** ウィンドウで、**[NNM iSPI Performance ETL Server]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
 - c デフォルトの **[ログオン]** 設定 (ローカルシステム) を **[アカウント]** に変更した後、使用しているユーザーアカウントの資格情報を指定します。

- d 手動で `%NPSDataDir%\rconfig\NNMPerformanceSPI.cfg` ファイルを編集し、次のプロパティを追加します。

```
PRSPI_NNMDIR //<nnmhostname>/PerfSpi
```

このインスタンスでは、`<nnmhostname>` が NNMi 管理サーバーの FQDN です。

- 5 プライマリー ノードで以下の手順を実行してください。

- a 以下のコマンドを実行して、NPS プロセスが実行中でないことを確認します。

```
%NPSInstallDir%\bin\stopALL.ovpl
```

- b パフォーマンス HA リソース グループ用に、少なくとも 1 つの共有ディスクを含む、ディスク デバイス グループ (および論理ボリューム) を定義します。

- c 共有ディスクのディレクトリ マウントポイントを作成します。

- d NPS の HA リソース グループを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm%\ha\%nnmhaconfigure.ovpl PerfSPIHA
```

このコマンドは、[手順 2](#) で取得した詳細を指定するように指示メッセージを表示します。

- e 設定を確認します。

次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm%\ha\%nnmhaclusterinfo.ovpl -group <resource_group> -nodes
```

ローカルノードが一覧表示される必要があります。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm%\ha\%nnmhaclusterinfo.ovpl -config PerfSPIHA -get PerfSPI_HA_CONFIGURED
```

コマンドの表示が YES である必要があります。

- 6 [29 ページ](#) の指示に従って、クラスタの各パッシブノードに NPS をインストールします。ただし、サービスは開始しないでください。

- 7 フェイルオーバークラスタマネージャを使用するか、または次のコマンドを実行して、NPS の HA リソースグループをオンラインにします。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm%\ha\%nnmhastartg.ovpl PerfSPIHA <resource_group>
```

- 8 NNMi 管理サーバーで有効化スクリプトを実行します ([有効化スクリプトの実行 \(27 ページ\)](#) を参照)。有効化スクリプトの実行中に、NPS クラスタの仮想ホスト名を指定します。

- 9 Windows 管理者ユーザーグループのメンバーで、あらかじめ登録された Administrator アカウントを使用していない場合は、各パッシブノードで次の手順に従います。

- a [スタート]>[管理ツール]>[サービス]に移動します。

- b [サービス] ウィンドウで、[NNM iSPI Performance ETL Server] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

- c デフォルトの [ログオン] 設定 (ローカルシステム) を [アカウント] に変更した後、使用しているユーザーアカウントの資格情報を指定します。

- d 手動で `%NPSDataDir%\rconfig\NNMPerformanceSPI.cfg` ファイルを編集し、次のプロパティを追加します。

```
PRSPI_NNMDIR //<nnmhostname>/PerfSpi
```

このインスタンスでは、`<nnmhostname>` が NNMi 管理サーバーの FQDN です。

- 10 パッシブ ノードごとに、次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nnm%ha%\nnmhaconfigure.ovpl PerfSPIHA
```

カスタム収集拡張パックを作成した場合は、さらに次のタスクを実行します。

- 1 アクティブな NPS システムで次のディレクトリに移動します。

```
%nnminstalldir%\nonOV\cognos\c8\webapps\PerfSpi\WEB-INF\classes\com\hp\ov\perfspi
```

- 2 アクティブ ノードから、ディレクトリにすべての利用可能なプロパティ ファイルをコピーし、各パッシブ NPS システムの同じディレクトリにこれらのファイルを転送します。

オプション 2: NNMi 管理サーバーのみが HA クラスタにある

このシナリオでは、アクティブな NNMi 管理サーバーで 1 回、各パッシブ NNMi 管理サーバーで 1 回ずつ、それぞれ有効化スクリプト (34 ページの [手順 8](#)) を実行した後、29 ページの指示に従って NPS をインストールします。

トラブルシューティングのヒント

Configuration Utility が次のエラー メッセージを表示する。

FATAL: サービス設定テストに失敗しました

- *原因 1:*

ユーザー名またはパスワードが正しくない。

解決方法:

有効化スクリプトで指定したユーザー名とパスワードを必ず指定してください。

- **原因2:**

共有パスの形式が正しくない。

解決方法:

必ず正しい共有パスを正しい形式で指定してください。正しいパスを指定するには、次の手順に従います。

- a NNMi 管理サーバーに移動します。
- b 次の場所から有効化スクリプトのログ ファイル `nnmenableperfspi_log.txt` を収集します。`%nnmdatadir%\log` または `/var/opt/OV/log`
- c ファイルの終わりの [サマリ] または [次のステップ] セクションで、共有場所の詳細を探します。
- d ログ ファイルから場所をコピーして、**Configuration Utility** の [パス] フィールドに貼り付けます。

- **原因3:**

セキュリティ強化 Linux (SELinux) で実行している NNMi 管理サーバーで、セキュリティポリシーが有効になっている。その結果、SMB 共有が動作していない。

解決方法:

SELinux 管理サーバー上のセキュリティ ポリシーを無効にします。

共有ドライブにアクセスできないと **Configuration Utility** に表示される

原因:

ネットワークのファイアウォール設定により、SMB プロトコルを使用して NPS から共有ファイルにアクセスできない。

解決方法:

この問題を解決するには、適切なツールを使用して SMB トラフィックの例外を作成する必要があります。

NPS の削除

専用サーバーから NPS を削除するには、次の手順に従います。



NPS を削除すると、iSPI でポーリングしたデータを使用してレポートを生成できなくなります。

- 1 NNMi が実行されていることを確認します。
- 2 管理者またはルート権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 3 次の場所に移動します。
Windows の場合 :`%nnminstallldir%\bin`
- 4 無効化スクリプト (`nnmdisableperfspi.ovpl`) を実行します。
- 5 管理者権限で専用サーバーにログオンします。

- 6 [スタート]メニューから、[すべてのプログラム] → [HP] → [NNM iSPI Performance] → [アンインストール] をクリックしてください。ウィザードが開きます。
[アプリケーションの要件チェックの警告] ダイアログボックスが開いた場合、警告メッセージを確認し、適切な対処をとり、[続行] をクリックします。
- 7 ようこそページが開きます。[OK] をクリックします。
- 8 [アプリケーションのメンテナンス] ページで、[アンインストール] を選択して、[次へ] をクリックします。[プレアンインストールの概要] ページが開きます。
- 9 [プレアンインストールの概要] ページで、[アンインストール] をクリックします。プログラムによってシステムからの NPS の削除が開始されます。
- 10 NPS が完全に削除されたら、[完了] をクリックします。この削除プロセスでは、NPS のすべてのコンポーネントがシステムから削除されます。

HA クラスタからの NPS の削除

HA クラスタから NPS を削除する場合、次のタスクを実行します。

タスク 1: HA ノードの設定を解除する

NPS HA ノードの設定を解除するには、次の手順に従います。

- 1 パッシブ ノードごとに、次の手順に従います。
 - a 管理者権限でノードにログオンします (HA の設定時に使用したのと同じユーザーを使用します)。
 - b 次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nm\%ha%\nmhaunconfigure.ovpl PerfSPIHA
<resource_group>
```
 - c **stopALL.ovpl** コマンドを実行して、すべての NPS プロセスを停止します。
- 2 アクティブ ノードで、次の手順に従います。
 - a 管理者権限でノードにログオンします (HA の設定時に使用したのと同じユーザーを使用します)。
 - b 次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nm\%ha%\nmhastoprg.ovpl PerfSPIHA
<resource_group>
```
 - c 次のコマンドを実行します。

```
%nnminstalldir%\misc\%nm\%ha%\nmhaunconfigure.ovpl PerfSPIHA
<resource_group>
```
 - d **stopALL.ovpl** コマンドを実行して、すべての NPS プロセスを停止します。

タスク 2: NPS を削除する

NPS の削除 (36 ページ) の指示に従って、アクティブノードと各パッシブノードから **NPS** を削除します。

5 使用



iSPI Performance for Traffic のみのライセンスを取得している場合、NNM iSPI Performance for Metrics の機能は使用できません。iSPI Performance for Traffic と NNM iSPI Performance for Metrics の機能を組み合わせて使用するには、iSPI Performance for Traffic と NNM iSPI Performance for Metrics の両方のライセンスを個別に取得する必要があります。

NPS レポートの起動

NPS レポートは以下から起動できます。

- NNMi コンソール
- レポート メニュー
- [スタート]メニュー

NNMi コンソールからの起動

- 1 次の URL を Web ブラウザ ウィンドウに入力します。

http://<完全修飾ドメイン名>:<ポート>/nnm/

このインスタンスでは、<完全修飾ドメイン名> は NNMi 管理サーバーの完全修飾ドメイン名で、ポートは jboss アプリケーションサーバーが NNMi コンソールと通信するのに使用するポートです。

- 2 NNMi コンソール ログオン ウィンドウが開いたら、ユーザー アカウント名とパスワードを入力して、**[サインイン]** をクリックします。
- 3 NNMi コンソールが開いたら、**[アクション]** > **[レポート・レポートメニュー]** の順に選択します。NPS レポート ウィンドウが開きます。

レポートメニューの直接起動

- 1 ブラウザで次の URL にアクセスします。

http://<fully-qualified-domain-name>:9300

このインスタンスでは、<完全修飾ドメイン名> は NPS システムの完全修飾ドメイン名です。

- 2 NNMi コンソール ログオン ウィンドウが開いたら、ユーザー アカウント名とパスワードを入力して、**[サインイン]** をクリックします。

3 レポートメニューが開きます。このページから任意のレポートを開くことができます。

[スタート]メニューからの起動

NPS のレポートメニューは、Windows の [スタート]メニューから起動できます。レポートメニューを起動するには、[スタート]→[すべてのプログラム]→[HP NNM iSPI Performance]→[レポートメニュー]の順にクリックします。

エラーのないインストールの確認

NPS がエラーなしでインストールされていることを確認するには、次のタスクを実行します。

- タスク 1: アプリケーションファイルとランタイムファイルの検索 (40 ページ)
- タスク 2: 設定ファイルの検証 (41 ページ)

タスク 1: アプリケーションファイルとランタイムファイルの検索

NPS ソフトウェアは、静的なアプリケーションソフトウェアファイル(バイナリ)と動的なランタイムファイルで構成されます。静的なアプリケーションソフトウェアに対するデフォルトパスにある **NNMPerformanceSPI** ディレクトリには、次のフォルダが含まれています。

- bin
- config
- Docs
- extentionpacks
- Installation
- java
- lib
- L10N
- build.info (NPS ソフトウェアが構築された日付を含むテキストファイル)

動的なランタイムファイルのデフォルトパスは、次のとおりです。

動的なランタイムファイルへのデフォルトパスにある **NNMPerformanceSPI** ディレクトリには、次のフォルダが含まれています。

- contentstore
- database
- logs
- nmappfailover
- rconfig
- PerfSPI_Diagnostics

動的なランタイムファイルへのデフォルトパスには、インストール済みの拡張パックごとに追加のファイルが 1 つ含まれています。NNM iSPI Performance for Metrics がインストールされている場合は、このパスに Interface_Health フォルダと Component_Health フォルダも含まれています。

タスク 2: 設定ファイルの検証

Configuration Checker は、メインの設定ファイルに有効なエントリが含まれていることを確認します。Configuration Checker を起動するには、以下の手順に従ってください。

[スタート]>[すべてのプログラム]>[HP]>[NNM iSPI for Performance]>[Configuration Checker]

すべてが正常の場合、Checker によって次のメッセージが表示されます。

情報：設定ファイルの確認が正常に完了しました。

NPS を専用システムにインストールした場合、インストール時に作成されたユーザー資格情報を指定する必要があります (28 ページの手順 11 を参照)。

Configuration Utility の使用

以下のパラメータを変更するには、設定ユーティリティを使用します。

- NNM データファイル フォルダへのパス
- NNM サーバー上の共有ドライブにアクセスするのに必要な資格証明
- データ保有

これらの変更を行うには、以下の手順に従います。

1 設定ユーティリティを起動します。

[スタート]>[すべてのプログラム]>[HP]>[NNM iSPI for Performance]>[Configuration Utility]

2 [停止] をクリックします。([停止] をクリックするとデータ処理およびテーブル作成が停止します)

3 以下の変更を行います。

アカウント名の変更

パスワードの変更

- アカウント名の変更



同一システムへのインストールの場合、「ローカル システム」アカウント オプションを使用します。

- パスワードの変更



同一システムへのインストールは適用できません。

- 共有 NNM データファイル ディレクトリへのパスの変更

- アrchive テーブル データのデフォルトの保有期間を変更します。



このフィールドで指定した期間中、システムに未処理データが保有されます。サマリデータは 400 日間保有できます。デフォルトのデータ保有期間は 70 日間です。

- デフォルト = 14 日
 - 最大の保有期間 = 400 日
- 4 **[適用]** をクリックします。
 - 5 **[開始]** をクリックします。
 - 6 **[終了]** をクリックします。

システムを再起動しない限り、変更が読み込まれることはありません。特定の状況（たとえば、共有ファイルシステムの準備が整っていない）では、再起動を遅らせる必要があります。

NPS のトラブルシューティング

NPS の運用に問題がないかを確認するために、次の診断ツールを使用できます。

- [Log File Monitor](#) (42 ページ)
- [.Log File Analyzer](#) (43 ページ)
- [診断レポート](#) (43 ページ)

Log File Monitor

Log File Monitor は、Chainsaw です。Chainsaw を使用すると、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、および FATAL メッセージが `prspi.log` ファイルに届くと、それらをモニタリングできます。`perfspi.log` ファイルには、昨夜午前 0 時からのすべてのメッセージが含まれます。`prspi.log` へのパスは次のとおりです。

```
%NPSDataDir%\logs\prspi.log
```

次の手順に従って、NPS がエラーなしで実行されていることを確認します。

- 1 Log File Monitor を開きます。
[スタート] > [すべてのプログラム] > [HP] > [NNM iSPI for Performance] > [Log File Monitor] の順に選択します。
- 2 ようこそページにはいくつかのタブが含まれます。**[メッセージインタフェース]** タブ (`perfspi.log` へのパス) を選択します。このビューには、次の 3 つのペインがあります。
 - イベント ペイン - 上部中央
 - 詳細イベント ペイン - イベント ペインの下
 - ツリー ロガー ペイン - イベント ペインの左

ツリー ロガー ペインを使用して、イベント ペインのメッセージをフィルタリングできます。

イベント ペインは常に変化します。イベント ペインには `prspi.log` に到着した最新のメッセージが表示され、詳細イベント ペインにはそのメッセージに関する追加情報が表示されます。



ログ ファイルが切り詰められ、アーカイブされると、Chainsaw がメッセージのスクロールを停止する場合があります。この現象が発生した場合は、Chainsaw を再起動してください。

Log File Analyzer

Log File Analyzer を使用して、以下を表示します。

- それぞれの拡張パッケージ内でプロセスによって生成された警告の日次サマリ
- それぞれの拡張パッケージ内でプロセスによって生成されたエラーの日次サマリ
- それぞれの拡張パッケージ内の選択したプロセスのタイミング データ

以下の手順に従ってください。

- 1 ログ ファイル アナライザを開きます。

[スタート]>[すべてのプログラム]>[HP]>[NNM iSPI for Performance]>[Log File Analyzer] の順に選択します。

- 2 警告とエラーを確認します。

警告およびエラーのサマリ データは、直前の 2 週間前までをカバーします。最後のサマリは本日をカバーし、不完全なものになります。サマリ データは以下ことを示します。

- 日付
- ある場合は、プロセスごとのエラーの数
- ある場合は、プロセスごとの警告の数

警告は、通常は自己修正する遷移状態、一般的には一時的な不一致を示します。警告メッセージまたはエラー メッセージが表示されたら、テキスト エディタで関連するログファイルを表示することで詳細に調査するといいかもかもしれません。

- 3 スクロール ダウンして警告およびエラーのサマリを通過してタイミング データを表示します。タイミング データは、以下を表示します。

- 直前の 2 週間にプロセスが実行された合計回数
- 直前の 2 週間のプロセスごとの平均実行時間
- 標準偏差
- 直前の 2 週間のプロセスごとの最大実行時間
- 実行ごとの処理されたレコードの平均数
- 処理されたレコードの 1 秒あたりの平均数

診断レポート

自己診断拡張パックには、次の 6 つのレポートが含まれます。

- カレンダー
- チャート詳細
- ヒートチャート
- 管理対象インベントリ
- 最も変化した
- ピーク期間
- 上位 N

- タスク期間上位 10
- 上位 N チャート

これらのレポートは、NPS プロセスの期間に関連するトレンドをモニタリングします。レポートの内容についての詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

Diagnostic Collector

Diagnostic Collector を使用して、さまざまなログファイルから診断情報を収集できます。診断情報を収集するには、次の手順に従います。

- 1 管理者権限で NPS システムにログオンします。
- 2 Diagnostic Collector の起動：

[スタート]>[全てのプログラム]>[HP]>[NNM iSPI for Performance]>[Diagnostic Collector]

Diagnostic Collector によって、さまざまなログファイルが収集されます。これらのログファイルは、次のディレクトリに配置される DiagnosticFilesYYYYMMDD_HHMMSS.tar.gz ファイルに組み込まれます。

```
%NPSDataDir%\collectDiag
```

問題の調査中に tar.gz ファイルを HP サポートに送信できます。

パフォーマンス ポーリングのデフォルトの変更

NPS をインストールすると、いくつかのパフォーマンス ポーリングが自動で有効になります。ポーリングの要件がデフォルトとは異なる場合、デフォルトを変更する必要があります。デフォルトの変更は NNMi コンソールのタスクになります。

ノードループに対するパフォーマンス ポーリングを変更するには、ノード設定フォームを使用します。NNMi コンソールからこのフォームにアクセスするには、次のように選択します。

[ワークスペース]>[設定]>[モニタリングの設定]>[ノードの設定]

パフォーマンスポーリングのデフォルトの変更に関してヘルプが必要な場合は、NPS のオンラインヘルプの「管理」セクションにある次のヘルプトピックを参照してください。

NNMi のパフォーマンス ポーリングの設定

例外のしきい値の設定

いくつかの NPS レポートは例外をモニタリングしますが、NNMi の中でパフォーマンス メトリックのしきい値が設定されるまで、例外に関するデータはこれらのレポートには含まれません。デフォルトのしきい値はないため、しきい値は自動的に設定されません。しきい値の設定は手動による手順になります。

例外や、しきい値の条件に関連するインシデントが生成され過ぎないようにするには、異常な動作にフラグを設定するようなしきい値を設定します。NPS レポートに含まれる相違を詳しく調べることで、異常な動作についての理解を深めることができます。

しきい値を設定する準備が整ったら、[ノードの設定] フォーム上の [しきい値の設定] タブを使用します。このタスクに関してヘルプが必要な場合は、NPS のオンラインヘルプの「管理」セクションにある次のヘルプトピックを参照してください。

NNMi のしきい値の設定

NPS では、特定のメトリックに対して値の正常（期待）範囲を定義するためのベースラインメトリックが提供されます。このベースラインメトリックにより、特定のメトリックの将来値を履歴データに基づいて予測できるようになります。

NNMi では、[しきい値の設定] フォームに入力した値に基づく上限正常値が提供されます。この上限正常値は、メトリックに対して上限しきい値を設定する必要がない場合は無効化することができます。

[しきい値の設定] フォームの詳細については、管理者用のオンラインヘルプを参照してください。

BI Server の管理者パスワードの変更

NNMi コンソールに管理者としてログオンしている場合、NNMi コンソール からレポートメニューを起動できます。NNMi のシングル サインオン認証機能が動作しない場合、次の手順に従って NPS レポートメニューを起動できます。

- 1 次の URL にアクセスします。
http://<FQDN_of_NPS_system>:9300/p2pd/NPS.html
- 2 ナビゲーションパネルで [BI Server] タブをクリックし、BI Server 管理者としてログオンすることを選択します。
- 3 ErsAuthenticationProvider (デフォルト設定) に名前空間を設定します。もう 1 つの選択肢 (ErsTrustedSignonProvider) に名前空間を設定しないでください。
- 4 **[OK]** をクリックします。
- 5 ユーザー名 ErsAdmin でログオンします。

インストール後、直ちに BI Server 用のデフォルトパスワード (ErsAdmin) を変更することをお勧めします。以下の手順に従ってください。

- 1 次のディレクトリに移動します。%NPSInstallDir%\bin
- 2 新しいパスワードの次に、以下のコマンドを入力します。
changeBIpwd.ovpl <新しいパスワード>
- 3 システムが次のメッセージを表示します。
ErsAdmin のパスワードが正常に設定されました。

6 ライセンスの取得

恒久ライセンスを取得するには、恒久ライセンスのパスワードを取得してから、**Autopass License Management** を使用して、ライセンスのパスワードをインストールします。ライセンスのパスワードは、NPS が専用サーバーにインストールされている場合でも、NPS システムではなく NNMi サーバーにインストールします。



NNM iSPI Performance for Metrics 以外の iSPI のライセンスを取得している場合、30 日の評価期間を過ぎると、NNM iSPI Performance for Metrics の機能を使用できなくなります。NPS で NNM iSPI Performance for Metrics の機能を使用するには、NNM iSPI Performance for Metrics のライセンスを別途取得する必要があります。

iSPI 製品に付属のレポート テンプレートは一切変更しないでください (変更したレポート テンプレートはサポートされません)。

NNM iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスの取得

NNM iSPI Performance for Metrics の恒久ライセンスを取得するには、次の手順に従います。

- 1 次の情報を収集します。
 - a HP 製品番号および注文番号 (これらの番号は資格証明書に記載されています)
 - b NNMi 管理サーバーの IP アドレス
 - c 会社または組織の情報
- 2 コマンド プロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
%NnmInstallDir%\bin\%nnmlicense.ovpl PerfSPI -g
```
- 3 **Autopass License Management** ウィンドウが開きます。[**ライセンス パスワード**] ダイアログ ボックスで、[**ライセンスの要求**] をクリックします。
- 4 ウィンドウの指示に従って、ライセンス パスワードをインストールします。

または、テキスト ファイルで恒久ライセンスを適用するには、次の手順に従います。

- 1 HP 製品番号および注文番号を取得します (これらの番号は資格証明書に記載されています)。
- 2 テキスト エディタでテキスト ファイルを開いて、そのテキスト ファイルにライセンスのパスワードを入力します。
- 3 テキスト ファイルを保存します。
- 4 NNMi 管理サーバーで次のコマンドを実行します。

```
%NnmInstallDir%\bin\%nnmlicense.ovpl PerfSPI -f <ライセンステキストファイル>
```

NNM iSPI Performance for Metrics の追加ライセンス パスワードの取得

NNM のライセンス構成に関する情報、およびエンタープライズ インストールのライセンス層を追加する方法については、HP 営業担当者または Hewlett-Packard 正規販売店にお問い合わせください。

追加ライセンス パスワードを取得するには、次の HP パスワード配布サービス サイトに移動します。

<https://webware.hp.com/welcome.asp>

サードパーティ製のソフトウェアに関する制限事項

- BI サーバー ソフトウェアには、次の制限事項が適用されます。
 - 1 回に複数の管理者を指定することはできません。
 - Query Studio ユーザーを同時に 5 人以上指定することはできません。
 - iSPI データ モデルを拡張したり、追加データ ソースを iSPI システムに追加することはできません。
 - NNM iSPI Performance for Metrics のライセンスでは、Report Studio、Analysis Studio、Metric Studio、および Event Studio の機能を使用できません。
- Sybase IQ Software は、NPS の組み込みデータベースとして提供されます。Sybase IQ Software をそれ以外の目的で使用することはできません。

7 NNM iSPI Performance for Metrics のアップグレード

NNM iSPI Performance for Metrics のバージョンは、8.13 から 9.00 へ、および 9.00 から 9.10 へとアップグレードできます。NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 9.10 は NNMi 9.10 でサポートされています。アップグレード前に、NNMi が 9.10 にアップグレードされていることを確認してください。

アップグレードを開始する前に、次のコマンドを使用して NPS データをすべてバックアップするようにしてください。

Windows の場合：

```
%NPSInstallDir%\NNMPerformanceSPI\bin\backup.ovpl -b <dir> -f
```

NNMi 管理サーバーでのアップグレード

NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 9.00 が NNMi 管理サーバーにインストールされている場合、次の手順に従います。

- 1 NNMi が 9.10 にアップグレードされていることを確認します。
- 2 管理者権限で管理サーバーにログオンします。
- 3 すべての前提条件を満たしていることを確認します ([前提条件 \(13 ページ\)](#))。
- 4 NPS のインストール (19 ページ) の指示に従います。



NNM iSPI Performance for Metrics 8.13 を使用している場合：

NNM iSPI Performance for Metrics 9.10 へとアップグレードする前に、NNM iSPI Performance for Metrics 9.00 にアップグレードします。

専用サーバーでのアップグレード

NNM iSPI Performance for Metrics バージョン 9.00 が専用サーバーにインストールされている場合、次の手順に従います。

- 1 NNMi が 9.10 にアップグレードされていることを確認します。
- 2 管理者権限で NNMi 管理サーバーにログオンします。
- 3 [有効化 スクリプトの実行 \(27 ページ\)](#) の指示に従って、有効化スクリプトを実行します。
- 4 管理者権限で NNM iSPI Performance for Metrics サーバーにログオンします。
- 5 すべての前提条件を満たしていることを確認します ([前提条件とプランニング \(13 ページ\)](#))。

6 29 ページの指示に従います。



NNM iSPI Performance for Metrics 8.13 を使用している場合：

NNM iSPI Performance for Metrics 9.10 へとアップグレードする前に、NNM iSPI Performance for Metrics 9.00 にアップグレードします。

8 インストールの問題

問題：インストーラが「*変数の初期設定中に問題が発生しました*」のエラーを示して失敗する。

詳細：

この問題は Windows システムで見られます。

解決方法：

%TEMP% ディレクトリの内容を削除してシステムを再起動してから、インストーラを再開します。

問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって WARNING メッセージが表示される。

詳細：

警告メッセージが表示されていてもインストールは続行できますが、続行する前に問題を解決することを強くお勧めします。警告は、システムの推奨値を満たしていない場合に表示されます。個別のインストール チェックの名前をクリックすると、詳細を確認できます。詳細は、『インストール ガイド』の*前提条件とプランニング* (13 ページ) を参照してください。

解決方法：

検出された警告によって異なります。

問題：システム チェック実行の結果、インストーラによって ERROR メッセージが表示される。

詳細：

最小システム要件を満たさない場合、インストールの続行が許可されません。インストールを続行するには、これらの問題を修正する必要があります。

個別のインストール チェックの名前をクリックすると、詳細を確認できます。詳細は、『インストール ガイド』の*前提条件とプランニング* (13 ページ) を参照してください。

解決方法：

検出されたエラーによって異なります。

問題 : NNMi はマシンにインストールされていないが、NNMi のバージョンが正しくないという NNMi バージョンチェックの ERROR メッセージがインストーラによって表示される。

詳細:

インストーラ チェックの詳細ペインに次のメッセージが表示されます。

NNM のバージョンがサポートされているか確認しています ...

NNM のバージョンがサポートされていることを確認する必要があります。

NNM のバージョン チェックを実行しています

```
/tmp/HPNNMPerformanceSPI/AppCheckNNMVersion.sh:line 24:/opt/OV/nonOV/perl/a/bin/perl: そのようなファイルまたはディレクトリはありません
```

エラー : NNM のバージョンが正しくありません

NNM バージョンはサポートされていません

解決方法:

次のファイルがあるかどうかを確認してください。 `%NPSDataDir%/NNMVersionInfo`。そのファイルが存在して、NNMi がシステムにインストールされていない場合は、前にインストールしたバージョンの残余物であり、安全に削除できます。

問題 : インストールに長時間かかる。

詳細:

一部のシステムでは、インストールを完了するのに最長 2 時間かかる場合があります。その大部分は、BI サーバーおよび拡張パックのインストールに費やされます。スプラッシュ画面が定期的に変化して、右下の砂時計アイコンが回転している場合、インストーラは停止していません。

解決方法:

インストーラがインストールを完了するまで続行してください。

問題 : NNMi コンソールの [アクション] メニューに [レポート - レポートメニュー] へのリンクがない。

詳細:

有効化スクリプトが実行されませんでした。

解決方法:

`nnmenableperfspi.ovpl` スクリプトを実行してください。 [有効化 スクリプトの実行 \(27 ページ\)](#) を参照してください。

A サイレントインストールの実行

無人のシステムにサイレントインストールを実行するには、正しいパラメータを含む初期化ファイルが必要です。正しいパラメータを含む初期化ファイルは、通常のインストール時に作成されます。次のテンプレートを使用して、独自の初期化ファイルを作成することもできます。

```
[NONOV.OvTomcatA]
ShutdownPort=8005
Jk2Ajp13Port=8009

[installer.properties]
setup=HPNMMPerformanceSPI
licenseAgreement=true
group=Default
media=E:\packages\
appRevision=9.10.000
tempDir=C:\Documents and Settings\Administrator\Local Settings\Temp\
customFeatureSelected=NNMPerfSPI MetricsExtensionPacks
installDir=C:\Program Files (x86)\HP\HP BTO Software\
customLangSelected= en
dataDir=C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO
Software\
systemDir=C:\WINDOWS\system32
appDescription=HP NNM iSPI for Performance
systemLocale=English
```

NNM iSPI Performance for Metrics を有効化せずに **NPS** のみをインストールする場合は、`customFeatureSelected` パラメータを `NNMPerfSPI` に対してのみ設定します。

`media` パラメータを、システムのマウントポイントからパッケージディレクトリへのパス（メディアのルートにあります）に設定します。

または、**NPS** のインストール中に作成される `ovinstallparams<タイムスタンプ>.ini` ファイルを使用することもできます。

サイレントインストールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 テンプレートで作成した **ini** ファイルを作成して使用するには、次の手順に従います。
 - a テンプレートを使用して、以下の名前でも独自の **ini** ファイルを作成します。
`ovinstallparams.ini`
 - b ターゲットシステムの `%TEMP%` フォルダにこのファイルをコピーします。
- 2 別の **NPS** インストールで作成した **ini** ファイルを使用するには、次の手順に従います。

- a ini ファイル (ovinstallparams<タイムスタンプ>.ini) をソース システム (NPS がすでにインストールされているシステム) から収集します。
この ini ファイルへのパスは以下のとおりです。
%TEMP%\%HPOvInstaller\%HPNNMPerformanceSPI_9.10.000
 - b 必要に応じてファイルを変更します。NNM iSPI Performance for Metrics を有効化せずに NPS のみをインストールする場合は、customFeatureSelected パラメータを NNMPfSPI に対してのみ設定します。media パラメータを、システムのマウントポイントからパッケージディレクトリへのパス (メディアのルートにあります) に設定します。
 - c ファイル名からタイムスタンプを削除して、ファイル名を次のように変更します。
ovinstallparams.ini
 - d ターゲット システムの %TEMP%\ フォルダにこのファイルをコピーします。
- 3 ターゲット システムに管理者としてログインします。
 - 4 NPS DVD をターゲット システムの DVD-ROM ドライブに挿入し、コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
<DVD_drive>%setup.exe -i silent
 - 5 サイレント インストールが開始されます。進行状況を知らせるインジケータはありません。
 - 6 インストールが正常に終了したかを確認するには、最新のインストール ログ ファイルを確認します。
 - a 以下の場所に移動します。
%TEMP%\%HPOvInstaller\%HPNNMPerformanceSPI_9.10.000
 - b 以下のファイルを開きます。
HPNNMPerformanceSPI_9.10.000_<timestamp>_HPOvInstallerLog.html
 - c インストールが正常終了している場合は、最後の行が *Successfully completed.* となっています。